

令和4年度当初予算編成方針

I 予算編成基本方針

1 現状について

昨今の景気の状態は、内閣府がまとめた9月の月例経済報告において、「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、このところそのテンポが弱まっている。」とし、先行きについても「感染拡大の防止策を講じ、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。」としているところです。また、新潟県の9月の経済動向によれば、県内経済の概況は、「新型コロナウイルス感染拡大による影響などから、一部で依然として厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある」としています。

国政においては、令和3年6月18日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2021」において、新型コロナウイルス感染症の「感染拡大防止に全力を尽くす」としながらも、「ポストコロナの持続的な成長基盤を作っていかなければならない」とし、感染症の克服と経済の好循環に向けた取組として、「感染症に対し強靱で安心できる経済社会の構築」と「経済好循環の加速・拡大」を図ることとしています。

また、当面の経済財政運営については、「感染症の感染拡大防止に引き続き万全を期す中で、厳しい経済的な影響に対して（中略）重点的・効果的な支援策を講じ、国民の命と暮らしを守り抜く」とし、さらに成長を生み出す4つの原動力として、「グリーン社会の実現」、「官民挙げたデジタル化の加速」「日本全体を元気にする活力ある地方創り」「少子化の克服、子供を産み育てやすい社会の実現」を推進することとしています。

国において改革のスピードを一層速めていくとしていることから、国政の動向について、これまで以上にアンテナを高くし、変化に取り残されることのないよう適宜適切に対応していくことが求められています。

当市の現状は、令和2年度決算では市税や地方交付税が増加しましたが、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）への対応や大雪による除排雪経費の増嵩により、実質単年度収支が3年ぶりに赤字となりました。また、経常収支比率も悪化し、徐々にではありますが財政の硬直化が進んでいる状況にあります。感染症の収束が見通せないことや、昨年度の大雪や近年の自然災害の大規模化など、突発的かつ大規模な財政出動も懸念されることから、財政調整基金残高30億円を確保しながらの慎重な財政運営が求められているところです。

前年度予算編成においては、感染症の影響により日本経済がリーマンショック並みの苦境になることを危惧し、減収を前提とした中で裁量的な一般財源に対し5%のマイナスシーリングとする前例にない厳しい条件で臨みました。

令和4年度の予算編成においては、感染症対応を最優先としながらも、昨年度実施した5%マイナスシーリングにより捻出した一般財源を2歳児保育料や児童クラブ利用料の無料化など、未来を担う次世代への投資に振り向けることで、ウィズコロナ・ポストコロナにおいて「住みよいまち 日本一健康田園文化都市・しばた」を実現するための取組みをさらに推し進めます。予算編成に当たっては、国が進める「グリーン社会の実現」「デジタル化の加速」「地方創生の展開」「少子化の克服」という4つの施策に呼応した新たな財源の確保や、現場目線での事業の「選択と集中」を引き続き徹底し、効率的・効果的な予算配分により、健全財政を堅持することが求められます。

2 予算編成の基本的な考え方について

(1) 要求の範囲

継続的、計画的に実施する事務事業に新規事業を加えた予算額を把握するため、この通知による要求額の範囲は、通年予算を基本とした現行の制度や計画に基づく全ての経費を対象とします。

年間所要額を適切に見積もることとし、国・県の制度改正又は補助内示に伴うもの、又は、緊急かつ重要な事業の発生に伴う経費以外の予算の補正は原則認めないものとします。

予算要求に当たっては、必要最小限の要求額に絞り込み、過大な見積もりを行うことのないよう留意してください。特に、明細等の内容が不明瞭なものは認められませんので、十分な根拠をもって積算してください。

(2) 要求の区分

予算要求については、例年の「一次要求経費」「二次要求経費」の二区分で実施します。

一次要求経費：「人件費（固定経費）」及び「経常経費（運営経費）」

二次要求経費：「政策経費（事業経費）」及び「特別会計に属する経費」

(3) 優先度の視点

当市では、新発田市まちづくり総合計画で示す将来都市像「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」を実現するため、まちづくりの4つの視点（「健康長寿」、「少子化対策」、「産業振興」、「教育の充実」）によって取り組む5つの基本目標（「生活・環境」、「健康・医療・福祉」、「教育・文化」、「産業」、「市民活動・行政活動」）を掲げ、まちづくりの方向性を示しています。また、しばた魅力創造戦略に基づき、「人口減少対策」と「地方創生」を戦略的に推進することとしています。

令和4年度は、上記計画とともに、新発田市まちづくり総合計画の行政評価結果を活用して定める「新発田市取組方針」に基づく取組みや市長指示事項等を【優先度の視点】として、一次要求経費（経常的経費）と二次要求経費（政策的経費）の二区分による編成を行い、令和4年1月予定の市長査定を経て確定します。

感染症対策に万全を期すため、感染防止対策は【別枠実施】とします。

【優先度の視点】

- ・新発田市まちづくり総合計画
- ・しばた魅力創造戦略
- ・新発田市取組方針
- ・市長指示事項等

【別枠実施】

- ・新型コロナウイルス感染症対応（感染防止対策に限る。）

(4) 予算の重点化とゼロシーリングの実施

歳入では、感染症の影響による市税の減収などが見込まれるほか、歳出では、先行きが見通せない感染症に対応しながらもウィズコロナ・ポストコロナに向けた施策を実施するための財源も確保しなければならない厳しい状況にあります。

各課等においては、このような中で感染症対応経費を確保しつつ、国が進める「グリーン社会の実現」「デジタル化の加速」「地方創生の展開」「少

子化の克服」という4つの施策に呼応するとともに、ウィズコロナ・ポストコロナの視点で現状を見直しブラッシュアップや再構築を行い「持続可能な行財政運営」に向けた施策を実施する必要があります。

そこで令和4年度は、前年度に5%マイナスシーリングで確保した一般財源を維持するため、課等別の一般財源に対し、ゼロシーリングを実施することとし、以下に示す方針に従って編成することとします。

各課等においては、施策の具体化に当たり、要求上限額の範囲内で、各事業の優先順位を厳しく見極め、経費については十分精査するとともに、同一の効果をあげるために、より業務量や経費を削減できる方法はないか、創意工夫をお願いします。

一次要求経費・二次要求経費ともに、令和4年度当初予算においてもシーリングを継続することとし、前年度裁量経費の一般財源額を要求上限額とします。

3 一次要求経費の見積もり方針について

(1) 要求の上限

経常経費の要求額については、各課等单位で、事業の廃止や感染症収束までの間に限っての休止・縮小等の見直し、徹底した無駄の排除を継続することとし、前年度当初予算の各課等の一般財源額要求上限額（ゼロシーリング）とします。

ただし、人件費（会計年度任用職員に係る経費を含む。）、法令による負担義務のある扶助費、一部事務組合負担金、特別会計への繰出金等、予備費及び前年度において臨時的な経費が発生し、一時的に増加した経費がある場合は、これを控除した額を対象額とします。

また、感染症対応経費（感染防止対策に限る。）については、要求上限とは別枠とします。

別紙「③予算編成事務要領（5分の1事務要領）」を参照のうえ、資料1-1「令和4年度当初予算要求上限一覧（確認用）」（以下、資料1-1～2-2は各課に個別に配布し、資料3から資料1-1はグループウェアの「文書管理—財務課」に掲載）で予算要求上限額を確認し、資料1-2「令和4年度当初予算要求上限一覧」、及び資料2-1「令和4年度当初予算要求一覧（一次要求経費）」を作成し、増加経費が見込まれる場合においても、課長等のマネジメントによって、予算要求上限として示された一般

財源額の範囲内で調整を図ってください。ただし、一次と二次要求経費の間の調整を認めることとします。

(2) 経常経費の圧縮について

当市においては、経常収支比率（経常的経費に充当する経常的収入の比率で、財政の弾力性を示すもの）が上昇しており、財政の硬直化が進んでいる状況にあります。

財政の健全性を維持・向上するためには、経常経費の圧縮が喫緊の課題であることから、安易に前年度と同様の積算による要求をするのではなく、義務的な経費以外は徹底した見直しを行ってください。

(3) 通年経費の見積もりの徹底について

上記2（1）に記載のとおり、通年経費を適切に見積もることを徹底してください。年度途中における予算の補正は、制度改正に伴うもの、計画変更に伴うもの、災害関連に伴うもののみ行うこととし、年間経費の見直しについては、安易に補正予算に頼ることのないよう十分配慮してください。

4 二次要求経費の見積もり方針について

(1) 要求の上限

政策経費の要求については、一次要求と同様に、前年度当初予算額における各課等の一般財源額を上限額（ゼロシーリング）とします。ただし、人件費（会計年度任用職員に係る経費含む。）、法令による負担義務のある扶助費、特別会計への繰出金等、公債費及び前年度において臨時的な経費が発生し、一時的に増加した経費がある場合は、これを控除した額を対象額とします。

また、感染症対応経費（感染防止対策に限る。）については、要求上限額とは別枠として扱います。

別紙「③予算編成事務要領（5分の1事務要領）」を参照のうえ、資料1-1「令和4年度当初予算要求上限一覧（確認用）」で予算要求上限額を確認し、資料1-2「令和4年度当初予算要求上限一覧」、及び資料2-2「令和4年度当初予算要求一覧（二次要求経費）」を作成し、上限額の範囲で要求してください。ただし、一次と二次要求経費の間の調整は可能とします。

(2) 政策経費のゼロベースでの見直し（事務事業見直し）

政策経費については、特に「2 予算編成の基本的な考え方について」に記載の「優先度の視点」「予算の重点化」を強く意識し、事務事業の見直しを検討してください。

また、分野横断的な事業（新規提案を含む。）については、各課等で連携し整合性を図った上で要求してください。

(3) 経費分類別の要求基準

① 社会保障関連経費（生活保護、自立支援、介護、子育て等）は、制度改革による影響額その他、対象者数の自然増を加算した範囲内での要求を認めることとします。その際、対象者数や単価について根拠を明確に示してください。

また、制度改革の動向、他市の状況を調査し、市単独のものについては、制度そのものの経緯や継続の合理性を十分に検討した上で、自己負担額や支給基準の見直し・廃止を検討し所要額を適切に見積もってください。

② 新規事業提案について

i) 原則、「優先度の視点」「予算の重点化」に基づいた、真に必要なかつ計画的な取組に限定します。

ii) 財政状況を鑑み、新規事業を提案する場合は、原則、既存事業の廃止、見直しを前提とします。（大規模施設整備に係る新規事業提案は除く。）

iii) 後年度負担を伴う事業については、必ず後年度負担見込額を明らかにするとともに、類似・先行事例等がある場合は比較分析し、適切な見込みであるかの検証を行ってください。

iv) 次の点についても十分留意してください。

- ・事業実施による効果を客観的な指標等で分析していること。
- ・事業実施のための財源について十分な検討がなされていること。
- ・他課等の事業を含め、類似の事業がないか確認していること。

5 一次・二次要求経費の共通事項について

(1) 要求上限額の厳守について

先述のとおり、厳しい行財政運営を行わなければならない状況にあるということを庁内全体で共有した上で、一般財源要求限度額の範囲内での要求を徹底してください。ただし、個々の事業について一般財源要求限度額内での予算計上を求めているものではありませんので、それぞれの現場が抱える課題を踏まえ、事業のメリハリをつけながら、市民の安心・安全、そして未来を開く成長の原動力につながるのかという視点から十分に議論を尽くしてください。

事業量の増加や、臨時的な経費の発生により一時的に増加する経費がある場合についても、課長等のマネジメントにより、上限額の範囲内での調整を徹底してください。

(2) 前倒し実施事業の取扱いについて

令和2年度において、令和3年度事業を前倒しして実施した場合は、例外的に、これを令和3年度当初予算額（令和4年度要求上限額）に加算できることとします。

令和3年度において、令和4年度計画事業を前倒しして措置した事業がある場合、原則、令和4年度においては更なる前倒し要求はしないこととします。

(3) 市長指示事項等の徹底について

前年度当初予算編成における市長査定での指示事項や財務課示達事項等、事業実施に条件がついているものについては、その条件が達成されているかを確認した上で予算を要求してください。指示等が達成できていないものについては、原則、要求を認めません（令和3年3月25日付け財第1483号で通知された「令和3年度当初予算編成における市長査定の結果について」参照）。

(4) 新規事業提案に係る提案書の提出について

新規事務事業等については、みらい創造課から別途通知される基準等に従って、「提案書」を作成し提出してください。

(5) 任意の負担金等の要求について

市に裁量（任意性）のある負担金及び補助金については、常にその妥当性を検証し、廃止を含め継続実施の必要性や負担金等の額が適正であるかを検証の上、適切に予算要求に反映してください。

(6) 不用残の削減について

予算の効率的な執行の観点から、不用残が多く生じた事務事業においては、安易に前年度同額の予算要求とせず、聖域を設けることなく真に必要な経費を精査の上で、適正に見積もってください。過去3か年において継続して不用残が多い場合は予算査定において検証します。

6 事務事業の見直しについて

平成28年度当初予算編成から、予算の重点化等を図るため、事務事業の見直しを強化しているところですが、令和4年度当初予算においても引き続き実施します。既存事業の見直しにより、予算要求限度額を厳守してください。

(1) 各課等による事業見直し提案

事務事業見直しは、次に示す視点と手法により実施します。各課等において、事業見直し又は事業内容の見直しによる経費削減を積極的に検討し、該当事業について、一次・二次の要求区分ごとに「事務事業見直しシート」（当初予算要求調書様式第11号）を提出してください。

【事務事業見直しの視点】

- ・ 事業開始時に設定した終期を迎えたもの。
- ・ 概ね3年以上実施してきたが、事業の成果等に疑問があるもの。
- ・ 既に所期の目的を達成したにもかかわらず、明確な理由なしに存続しているもの。
- ・ 社会情勢の変化等により市民ニーズが低下しているもの。
- ・ 類似する事務事業を新たに立ち上げた状況にあっても、既存事務事業の統廃合を行っていないもの。
- ・ 所管事業の中で優先度が低いもの。
- ・ 感染症の流行を鑑み、一定期間事業を休止すべき、又は休止できるもの

【事務事業見直しの手法】

事務事業の見直しは次の手法により実施します。

- ① 事務事業の廃止又は統合
- ② 事務事業内の要素（一部）の廃止又は統合
- ③ 事務事業に係る経費の削減
- ④ 事務事業の休止

(2) 成果検証事業の見直し

成果検証事業については、みらい創造課から別途通知される手順に従って対応してください。事業を廃止する場合は、一次・二次の要求区分ごとに「事務事業見直しシート」（当初予算要求調書様式第11号）を提出してください。

(3) 見直しに向けたスケジュールの作成について

廃止を含む事業見直しについて、市民周知に一定の期間を要する等により、令和4年度当初からの見直しが困難な場合は、市長査定において最終的な見直しまでのスケジュールを示してください。その際、必要以上の期間を設定せず、最短のものとなるよう留意してください。

7 ふるさとしばた応援寄附金の活用について

前年度に引き続き、ふるさとしばた応援寄附金の趣旨に合致する事業については、当該年度のふるさと応援寄附金を財源として活用することとします。

充当事業については、全要求区分（一次～二次要求経費）における各課等からの要求等を基にして、予算編成過程において選定することとします。

8 歳入の見積もり方針について

(1) 財源の確保

新規事業はもとより、既存事業においても、財源確保の意識を強く持ち、国県等の各種補助メニューについて積極的な情報収集に努め、有利な

特定財源の活用により、一般財源の削減に努めてください（資料3「令和3年度 各種事業補助率・出資金・融資制度の概要」参照）。

また、特定財源は適切に見積り、一般財源を過少に見積もることのないよう留意してください。予算措置後に特定財源が予算を下回った場合は、財源見合いで事業実施することを原則とします。

（2）県財政の動向

県では、令和元年10月に「新潟県行財政改革行動計画」を策定し、歳出歳入改革等の取組みを進めています。県の予算編成においても厳しい状況は続くことから、情報収集しながら動向に十分留意し、積極的な確保に努めてください。特に県単独の補助事業については、事業の継続・見直の動向を適切に把握してください。なお、県の事業が廃止又は縮小となる場合には当市の事業についても原則として廃止・縮小することとします。

9 予算調整（査定）について

新発田市予算規則第6条の規定に基づき、財務課長が本方針と照らし合わせて、事業内容及び予算要求額等を確認するとともに、国の地方財政計画や各種制度の見直し状況等を勘案しつつ、歳入・歳出要求に基づいた一般財源不足額を把握し、「優先度の視点」「予算の重点化」及び「事務事業の見直しの視点」を踏まえ、また、「経費分類別の要求基準」を満たしているか等を精査した上で、各事務事業の調整案を作成して市長に提出します。

最終的な判断は、1月に予定する市長査定（別途通知）により決定することとします。

なお、新規事務事業等に係る「提案書」については、予算要求から市長査定までを通じて、予算編成等の過程における意思決定手段として活用を図ることから、十分に内容を精査した上で作成してください。その際、予算要求額と「提案書」に記載する当該年度事業費を必ず一致させてください（予算要求額の訂正を行った場合は、必ず提案書も訂正してください）。

10 その他

予算要求に際しては、次に示す取組事項等も念頭に置きながら、積算等を行ってください。

(1) 公用車の環境負荷低減について

「新発田市環境率先実行計画 ～新発田市エコシフト21～」に定めるとおり、公用車の台数削減を基本として、更新や新規購入が必要と判断する際には、環境負荷と経費削減とのバランスを考慮しつつ可能な限りにおいて、電気自動車や低燃料・低公害車（エコカー）を選択してください。

(2) グリーン購入の推進について

(1) 同様に、環境への影響と経費削減とのバランスを考慮しつつ可能な限りにおいて、環境負荷軽減に寄与するグリーン購入適合品(環境物品)を積極的に導入してください。

(3) 公用車へのドライブレコーダー設置について

運転者の安全意識の向上や事故件数の削減効果、防犯対策の強化の観点から、車両の入れ替え（購入・リース共）等に合わせて、ドライブレコーダーの設置について検討してください。

(4) 木材利用の促進について

「新発田市公共建築物等における木材利用の促進に関する方針」（平成25年5月17日）に定めるとおり、地球温暖化防止や循環型社会構築などに資することを目的として、市有施設等における新潟県産材を利用した木造化・木質化等に率先して取り組んでください。

(5) 授産品の購入等の推進

障害者優先調達推進法の規定に従って、公共団体としての責務と経費削減とのバランスに配慮しつつ可能な限りにおいて、障がい者就労施設等からの物品及び役務の調達を推進してください。

(6) RPAやAI会議録システムの活用について

当市では、RPA（Robotic Process Automation）やAI会議録システム等を導入し、デジタル化による業務改善等を図っているところで、業務への積極的な活用を図るとともに、システム導入及び更新の検討や人件費の積算に際しては、これらの導入についても比較検討してください。

